

桑村小学校応援団会議！

桑村小学校 NO.6 令和4年6月27日 文責 渡邊

令和4年度函南町青少年健全育成大会の主張発表が、6月26日(日)に函南町文化センターで開催されました。その発表会には、函南町内の小学校5校、中学校2校、そして田方農業高校より代表者が1名ずつ選出され、発表を行いました。

桑村小学校からは6年生を代表して、内野剛志さんが、「地域の人々に見守られ」というテーマで主張発表を行いました。

6月23日(木)の朝、6年生全員を前に発表を行い、友達から大きな声援を受けました。また、1年生から5年生の児童には、朝の発表の様子を撮影したものを昼の給食時に紹介しました。

大会を迎えるにあたり、本校の学校応援団(コミュニティ・スクール)の鈴木薫さんに発表の様子を担当とともに見守っていただきました。

当日は、多くの観客を前にとても緊張したことと思いますが、剛志さんらしく堂々と発表することができました。とてもすばらしい発表に、会場にいた人たちから大きな拍手をいただきました。

では、剛志さんの発表内容を紹介します。



【6年生を前に発表】



【文化センターでの発表】

地域の人々に見守られ

桑村小学校 6年 内野 剛志

「おはようございます。いってらっしゃい。」

登校するときに、毎朝地域の人が声をかけてくれます。ぼくも、大きな声で、「おはようございます」と返します。下校するときも「おかえりなさい。こんにちは。」と言ってくれるので、ぼくも登校のときと同じように大きな声で、「ただいま。こんにちは。」とあいさつを返します。このように地域の人々は、ぼくたちが安全に楽しく登校や下校できるように見守ってくれるから、ぼくの周りの人は優しいと思います。

桑村小学校では、桑村小学校でしかできないことを地域の人と体験することができます。

例えば、桑村道場です。桑村道場とは、地域の人たちが水曜日の放課後に、勉強したい人の面倒を見てくれるものです。道場の先生方は自分の時間をけずってボランティアで年間20回以上面倒を見てくれるのです。道場の先生方は、わかりやすく、優しく、笑顔で教えてくれます。ぼくは、1年生のころから道場に入っているのですが、苦手だった算数が先生方のおかげでできるようになりました。母も、「苦手意識をもっていたけれど、やればできることや努力することの大切さを知ることができた。先生方には根気よく教えてもらってありがたい。」と話していました。

他にも桑村小学校でしかできない体験があります。それは、お茶つみです。お茶つみ体験授業は、4年生のときは新型コロナウイルス感染症対策のためできませんでし

たが、ぼくたちは5年間体験してきました。

お茶つみ体験授業は、学校の近くに住んでいてお茶畑を持っている秋山さんが協力してくれています。

ぼくたちがお茶の葉をつみやすいように、前日までに整備してくださっています。当日は、秋山さんからお茶のつみ方の説明を受けて、1年生から6年生までいっせいにお茶の葉をつみ始めます。秋山さんから教えてもらったのは、つむのにちょうどいいお茶の葉のことです。葉の色は黄緑色のものがよく、新しい葉がおいしいお茶になると、アドバイスをいただきました。その後、5月の中旬、ぼくたちがつんだ葉を製茶して飲めるようにしてくださいました。今年のお茶は少し苦みがあっておいしかったです。

その他にも桑村小学校にしかできない体験は、通学合宿、田植え、稲刈り、函南原生林探検などがあり、とても貴重な体験ができます。

最後に、ぼくが紹介したい人がいます。学校の近くに住んでいてぼくたちをいつも見守ってくれている鈴木薫さんです。ぼくは、薫さんに1年以上お世話になっています。学校の帰りに薫さんの家に行って宿題を見てもらうことがあります。ぼくは、薫さんから勉強を教えてもらうまで、勉強が全然好きではありませんでしたが、薫さんに教えてもらい、だんだん勉強ができるようになって、勉強が少しずつ好きになりました。薫さんは、自宅をぼくたちのために開放して、算数の問題や自学で自分が調べたいことをインターネットで調べるのを手伝ってくれます。親でも家族でもない人たちが自分の時間をさいて、ぼくたちのために関わってくれることはふつうではできないことだと思います。

このように、ぼくは地域の人に見守られながら学校に通っています。地域の人がぼくたちのことを見守っていてくれるので、ぼくもぼくにできることをしようと思って実践していることがあります。それは、「おはよう」と声をかけられたら、大きな声であいさつをすること、子供会のしゃぎりの練習をがんばること、準備や片付けを手伝うことなどです。ぼくの実践していることは小さなことかもしれませんが、続けていくことで地域に明るいあいさつが響き、その輪が広がっていくかもしれません。

ぼくは、函南が好きです。桑村小学校のある地域が大好きです。自然に恵まれ、人も優しいからです。ぼくも大人になったら、お世話になった人たちを見習って、登下校する小学生が安全に楽しく登校できるように見守ってあげたいです。

桑村小学校のコミュニティ・スクール通信『桑村小学校応援団会議』では、地域の皆さんの協力を得た教育活動をこれまで紹介してきました。（※桑村小学校のホームページを検索してみてください）

今回、児童の作文をこの紙面にて紹介いたしました。地域の皆さんから応援していただいた様々な活動に対し、感謝の気持ちをもっていることがとても嬉しく感じられます。そして、何よりも「ぼくは、函南が好きです。桑村小学校のある地域が大好きです。自然に恵まれ、人も優しいからです。ぼくも大人になったら、お世話になった人たちを見習って、登下校する小学生が安全に楽しく登校できるように見守ってあげたいです。」のところは胸が熱くなりました。今の自分を見つめ、将来の自分の姿を想像しているところがすばらしく思います。きっと剛志さんが抱いた思いは、多くの6年生がもっているものと思われるます。

これからも本校の児童のもつ「豊かな感性」と「深い思考力」を育成し、学ぶ児童も、指導する教師も、送り出す保護者も、見守る地域住民も幸せだと感じる学校を協働で創っていきたく強く願います。どうか応援をお願いします。